9 月 8 日／21 日

# 至聖なる我が女宰生神女永貞童女マリヤの誕生祭

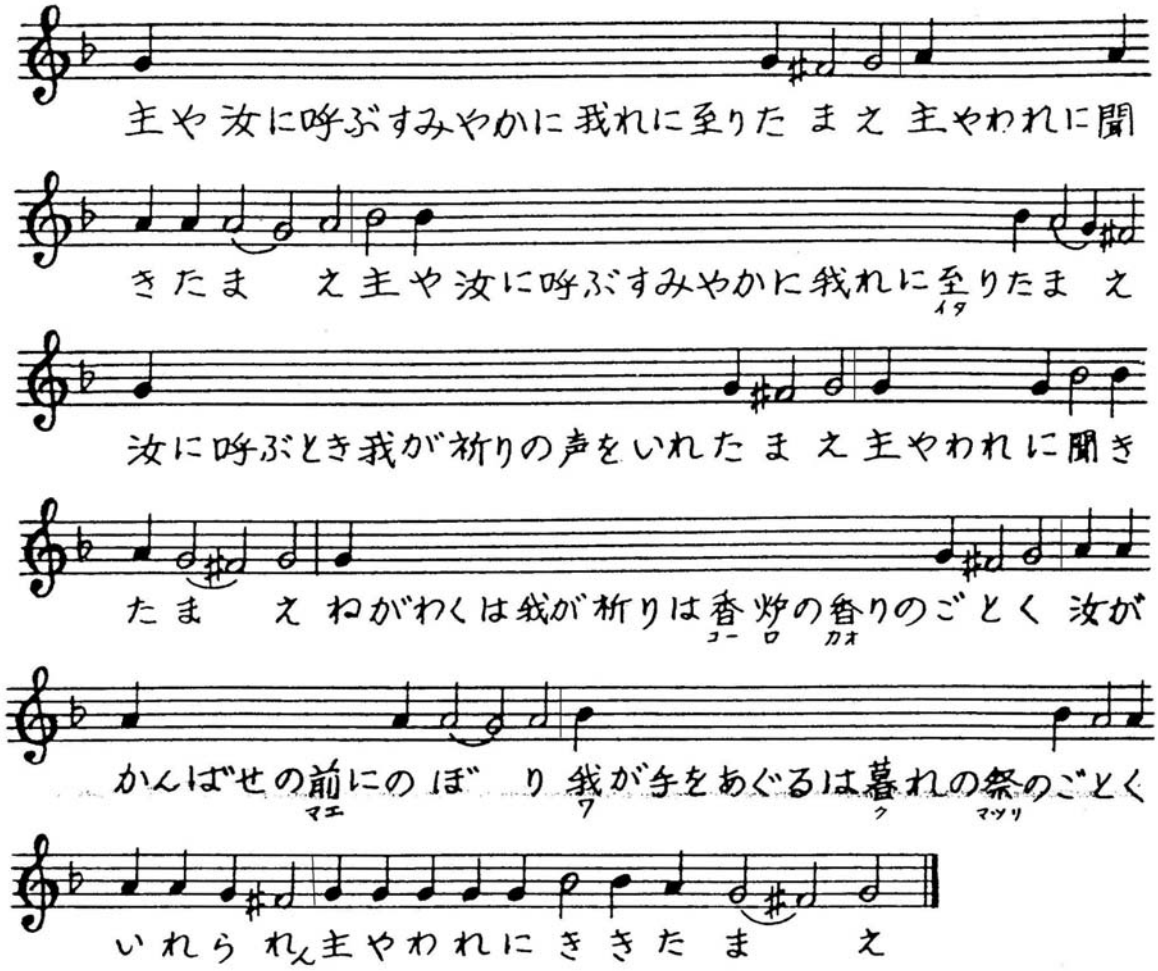
## 晩 課

首唱聖詠、大連祷、**カフィズマ（悪人の謀）を歌う。小連祷に続いて**

## 祭－１

**▽祭日経　P851**

**「主よ、爾によぶ」**に八句を立てて讃頌を歌ふ、第六調。（總主教セルギイの作）。




（句）主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給へ。

靈智なる寶座に息ふ神は今日己の爲に地上に聖なる寶座を備へ、睿智を以て天を固めし者は仁愛に因りて生ける天を造れり。蓋果を結ばざる根より生命を施す植物として我等の爲に其母を生ぜしめたり。奇蹟の神、憑恃なき者の憑恃なる主よ、光榮は爾に帰す。

（句）願はくは爾の耳は我が祷の聲を聽き納れん。

斯の日は主の日なり、人人よ、喜べ、蓋視よ、光の宮、生命の言の書は腹より出で、東に向ふ門は現れて、大なる司祭長の入るを候つ、獨にして獨のハリストスを世界に入るる者なり、我等の靈の救の爲なり。

**（句）主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん為なり。**

神の望に因りて胎の荒れたる高名の婦等は生みたれども、マリヤは悉くの生れし者に秀でて神妙に輝けり、蓋胎の荒れたる母より至榮に生れて、性に超えて種なき腹より身にて萬有の神を生めり。彼は獨生の神の子の獨一の門なり、神の子は之を過りて閉ぢたるままに守り、親ら知るが如く睿智を以て一切を理めて、衆人の救を爲し給へり。二次。

**（句）我が霊主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。**

**（句）主を望み、我が霊主を望み、彼の言を恃む。**

（聖城のステファンの作）。

今日生まざる門は啓け、神聖なる童貞女の門は前に出づ。今日恩寵は始めて果を生じて、世に神の母を顯す。此に因りて地の者は天の者に合せらる、我等の靈の救の爲なり。二次。

**（句）願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其の悉くの不法より贖はん。**

**（句）萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。**

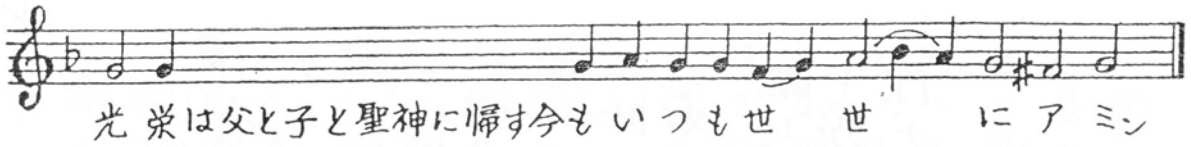
今日は全世界の歡喜の始なり、今日救を前兆する風は吹きたり、吾が性の不結果は解かる、蓋胎の荒れたる者は母と爲りて、造成主の生れし後にも童貞女たる者を生む。此より本性の神は己に屬せざる者を取りて、己の有と爲し、仁愛なるハリストス、我等の靈の贖罪主は其肉體を以て迷ひし者の救を成し給ふ。一次。

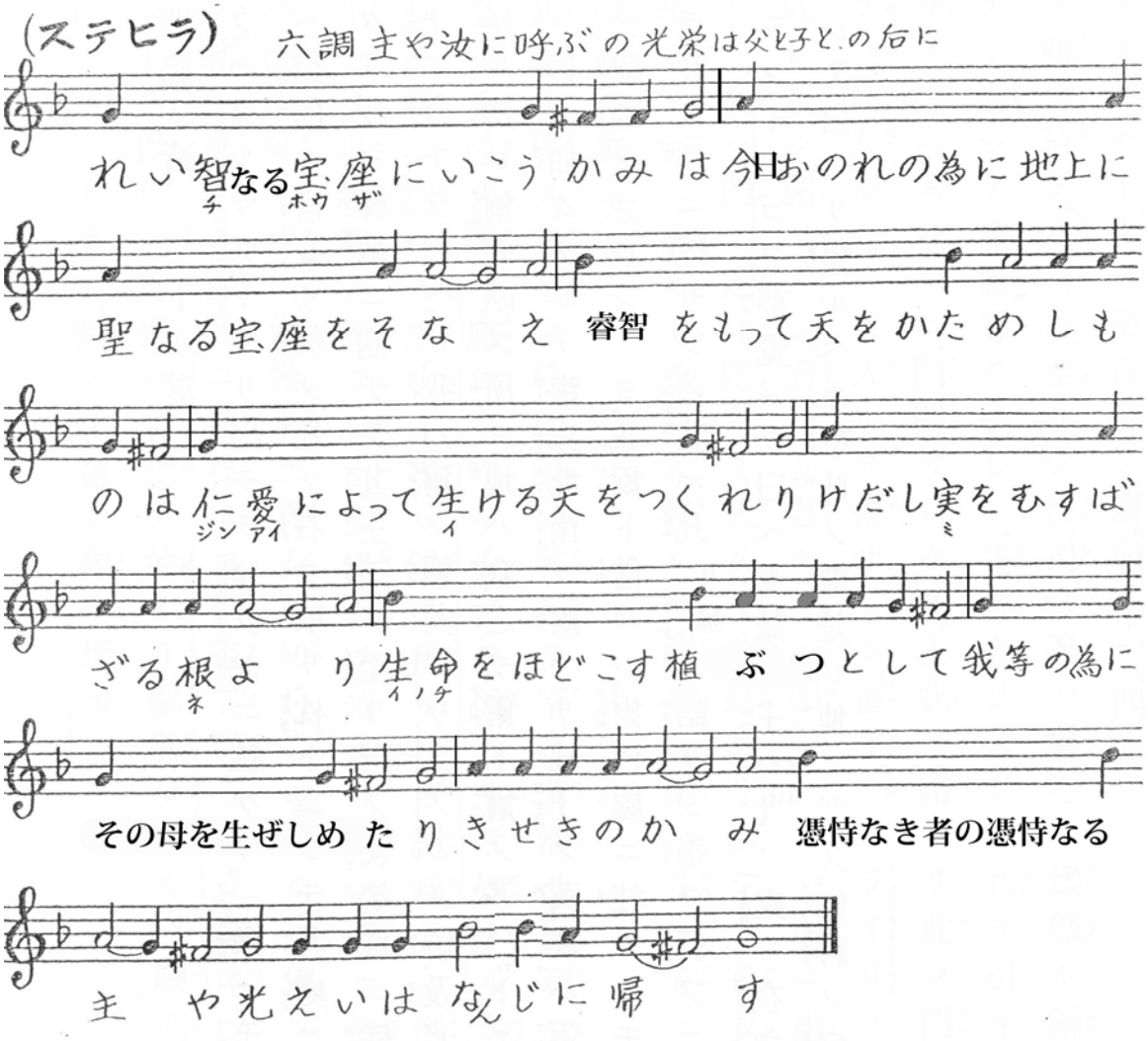
**（句）蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の真實は永く存す。**

今日胎の荒れたるアンナは萬族より預め選ばれたる神女を、萬有の王及び造成主、ハリストス神の居處として生む、神の定制を成就せん爲なり。之に因りて我等地に生るる者は改め造られて、朽壊より終なき生命に新にせられたり。一次。

**<u>光栄、今も、第一の讃頌</u>** P853

**麗智なる宝座に息ふ神は／今日己の為に／地上に聖なる宝座を備へ、／睿智を以て天を固めし者は／仁愛に因りて／生ける天を造れり。／蓋果を結ばざる根より／生命を施す植物として／我等の為に其母を生ぜしめたり。／奇蹟の神、／憑恃なき者の憑恃なる主よ、／光栄は爾に帰す。**






→通常部分（P7/8「聖にして福たる」へ戻る

（ポロキメンの後）

# 祭－２ パレミヤ（旧約聖書の読み）▽祭日経 P776

創世記の読。(二十八章)。

イアコフはワィルサワィヤより出でてハッランに往けり。一 處に至りて、日既に入りたれば、彼處に宿れり。彼の地の石を取り、枕 と爲して、其處 に寢ねたるに、彼夢を見たり、視よ、梯 地に樹ちて、其上天に至り、神の使 等此に縁りて陟 降せり。主は其上に立ちて曰へり、我は爾 の祖父アウラアムの神、及びイサアクの神なり、畏るる勿れ、爾 が臥す所 の地は、我之を爾 と爾 の子孫とに與へん、爾 の子孫は地の砂の如くなりて、海東 北南 に廣まり、地上の萬族は爾 と爾 の子孫とに因りて祝 福せられん、視よ、我爾 と偕にし、爾 何處に往くとも、其途に爾 を守り、又爾 を此の地に返さん、蓋 我は凡 そ爾 に語りし事を行 ふに至るまで爾 を離れざらん。イアコフ夢覺めて曰へり、誠 に主は此の處 に

在すに、我知らざりき。乃 懼れて曰へり、畏るべき哉此の處 、是れ他に非ず、即 神の家なり、此れ天の門なり。

イエゼキイリの預言書の読。(四十三、四章)

主是くの如く言ふ、八日に至りて後、司祭等は爾 等の燔祭と酬恩祭とを壇の上に獻げん、而 して我爾 等を納れん、主神之を言ふ。彼我を引きて聖所の東 に向へる外の門に返れるに、門閉されたり。主我に謂へり、此の門は閉されて開かれざらん、何人も此より入るを得ざらん、蓋 主イズライリの神は此より入りたり、此れ永く閉されん。君は其君たるに因りて、此の内に坐して、主の前に餅を食はん、彼は門の廊の路より入り、又其路より出でん。彼又我を引きて北の門の路より堂の前に至れり、我觀しに、視よ、光榮は主の堂に滿ちたり。

箴言の読。(九章)。

智慧は其家を建て、其七 の柱 を堅め、其畜 を宰り、其酒を調和し、其席を設け、其諸僕を遣 して邑の高き處 より呼ばしめて云へり、無知なる者よ、此に來れ。智慧の乏しき者に謂へり、來りて、我が餅を食ひ、我が調和せし酒を飲め、無知を棄てて生命を得、聡明の途を行け。侮慢者を戒 むる人は己 に辱を得、悪者を責むる者は 己 に疵を得ん。侮慢者を責むる勿れ、恐らくは彼爾 を悪まん、智者を責めよ、彼爾 を愛せん、智者に傳授せよ、彼益 智慧を獲ん、義者を教へよ、彼知識に進まん。

主を畏るる寅畏は智慧の始 なり、聖者を知るは聰明なり。我に由りて爾 の日は多くせられ、爾 の生命の年は増さん。

→通常部分 P10 重連祷へ戻る

(増連祷が終わったら)

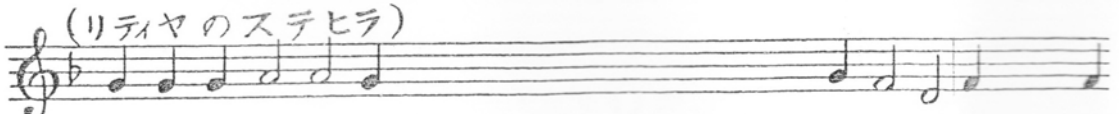
# 祭－３　リティヤのスティヒラ

▽祭日経 P853

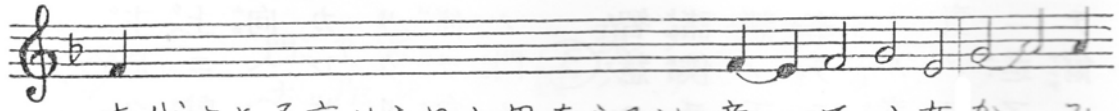
(聖城のステファンの作)。第一調

人人よ、今日我等の救 の始 は成れり。蓋 視よ、古代より預言せられし母并 に童貞女、神の器 は胎の荒れたる者より生れたり、イエッセイより華は出で、其根よりする杖は芽を出せり。原祖アダムは歡 ぶべし、エワは喜 びて樂しむべし、視よ、アダムの脅より造られし者は其女 及び裔を明 に讃美して云ふ、我の爲に救 は生れたり、我之に因りて地獄の縛 より釋かれんと。ダワィドは喜 びて琴を弾じ、神を讃め揚ぐべし。蓋 視よ、童貞女は産まざる胎より出でたり、我等の靈 の救 の爲なり。(楽譜は次ページ)

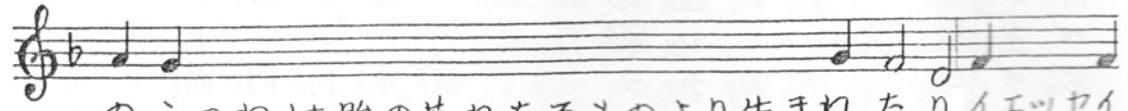
（リティヤのステヒラ）



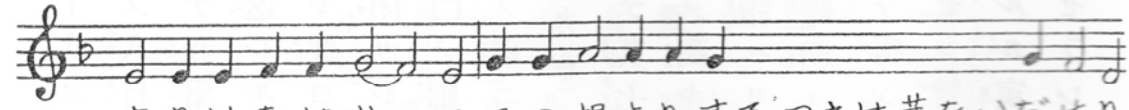
ひとびとや今我等の救いのはじめはなれりけだし見よ



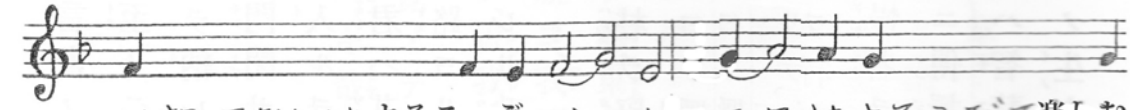
古代より預言せられし母ならびに童　てい女かみ



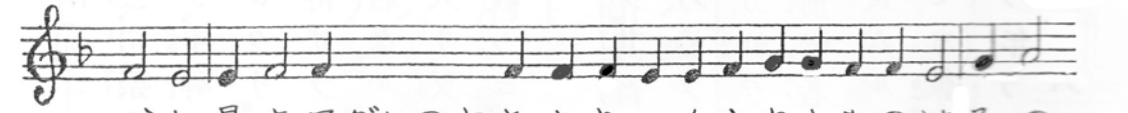
のうつわは胎の荒れたるものより生まれたりイエッセイ



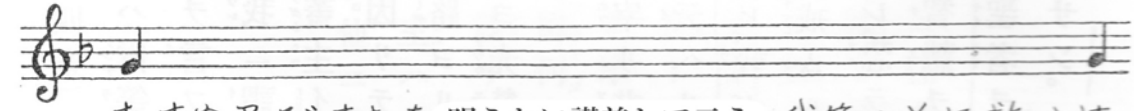
よりはなは出でその根よりするつえは芽をいだせり



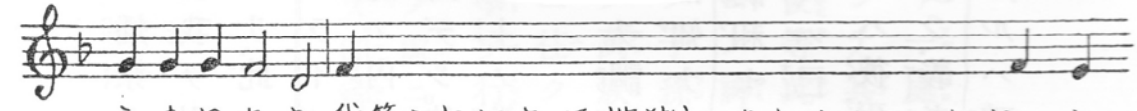
原祖アダムはよろこぶべし　エワはよろこびて楽しむ



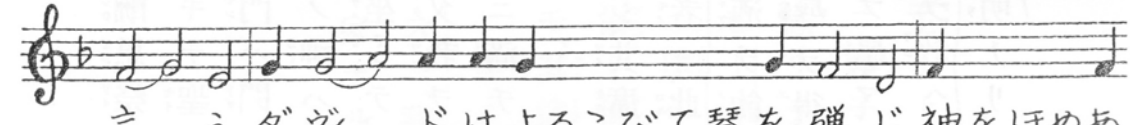
べし見よアダムのわきよりつくられしものはその



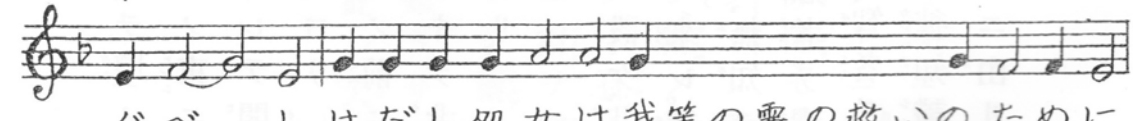
むすめ及びすえを明らかに讃美して云う　我等の為に救いは



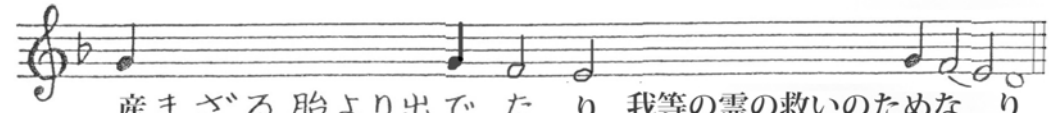
うまれたり我等これによりて地獄のなわめよりとかれんと



言うダヴィドはよろこびて琴を弾じ神をほめあ



ぐべしけだし処女は我等の霊の救いのために



産まざる胎より出でたり　我等の霊の救いのためなり

第二調

童貞を愛し、潔浄を慕ふ者、皆來れ、來りて、熱心を以て童貞の譽、堅き石より流る
る生命の泉、子を生まざる者より我が靈を淨め且照す無形の火の棘を接けよ

同調。(總主教アナトリイの作)。

祭る者の聲は何ぞや、イォアキム及びアンナは奥密に祝ひて曰ふ、アダム及びエワよ、今日
我等と偕に悦べ、蓋爾等が昔破誡を以て閉しし樂園の門を、衆の爲に啓く所の神女マ
リヤは、至榮なる果として我等に賜はりたり。
光明なるアンナの果を結ばざる胎より今日預見せられたる衆の女王、神の居處、永在者の
神聖なる殿は出でたり。彼に因りて耻なき地獄は踐まれ、原母エワは福たる生命に入れら
れたり。我等宜しきに合ひて彼に呼ばん、爾は女の中に福なり、爾の腹の果は祝福せ
られたり。

光榮、今も、第八調。(總主教セルギイの作)。

我が祭の吉徴の日に於て我等神靈の角を吹かん。蓋今日ダワィドの裔より生命の母、
黒暗を解く者は生る、此れアダムの復新、エワの喚起、不朽の泉、朽壞の削除なり、彼
に因りて我等神成せられ、死より脱れたり。故に我等信者はガウリイルと偕に彼に呼ばん、
恩寵を蒙れる者、慶べよ、主は爾と偕にす、爾に因りて我等に大なる憐を賜ふ者な
り。

**→通常部分へ戻る。 P11 リティヤへ**

**(リティヤが終わったら)**

# 祭-4 挿句のスティヒラ

第一調。**▽祭日経 P855**

**第四調** (總主教ゲルマンの作)。

全世界の喜悦は義なるイオアキム及びアンナより我等に輝けり、此れ至りて讃美たる
童貞女、其至大なる潔浄に因りて神の生ける宮と爲りて、獨誠に生神女なりと識らる
る者なり。ハリストス神よ、彼の祈・に因りて世界に平安、我等の靈に大なる憐を降し
給へ。

句、女よ、之を聽き、之を觀、爾の耳を傾けよ。

天使の預言に由りて、今日義なるイオアキム及びアンナより至淨の果たる童貞女は出でた
り、此れ天及び神の寶座、潔浄の器、全世界に喜悦を與ふる者、我等の生命の轉達者、呪詛
を解き、祝福を施す者なり。故に神に召されたる童貞女よ、爾の誕生に於て、世界に平安、
我等の靈に大なる憐を賜はんことを祈り給へ。

句、民中の富める者は爾の顔を拜まん。

胎の荒れたる子なきアンナは今日欣然として手を拍つべし、地に在る者は喜ぶべし、諸王
は祝ふべし、成聖者は祝福を以て樂しむべし、全世界は祭るべし蓋視よ、女王及び父の
無玷なる聘女はイエッセイの根より生じたり。是より婦女は悲に於て子を生むことなか

らん、蓋 欣喜は華さけり、衆 人の生命は世に居るなり。是よりイオアキムの禮物は返されず、アンナの憂 は喜 に變じたればなり。彼云ふ、選ばれたるイズライリ民よ、皆我と偕に喜 べ、蓋 視よ、主は我に其神聖なる光榮の生ける宮を與へ給へり、萬 衆の樂 と喜 及び我等の靈 の救 の爲なり。

光榮、今も、第八調。（總主教セルギイの作）。

信者よ、皆來りて、童貞女に趨り附かん、蓋 視よ、未だ孕まざる前に預見せられし我が神の母は生る。是れ童貞の寶藏、イエッセイの根より出でたるアアロンの杖、華を生 ぜし者と諸預言者の傳 、義なるイオアキム及びアンナの産なり。彼生れて、世界は彼と偕に改 めらる、彼生れて、教 會は其美 しきを以て飾らる。彼は聖なる殿、神性の容具、童貞の器 、王の宮なり。其内に於てハリストスに在る二性の言ひ難き結合の至榮なる祕密は行 はれたり。我等彼に伏拜して、至淨なる童貞女の誕 生を讃め歌ふ。

→通常部分 P13「シメオン祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主経」

司祭　　蓋 国と権能と光栄は爾父と子と聖神° に帰す、今も何時も世世に、

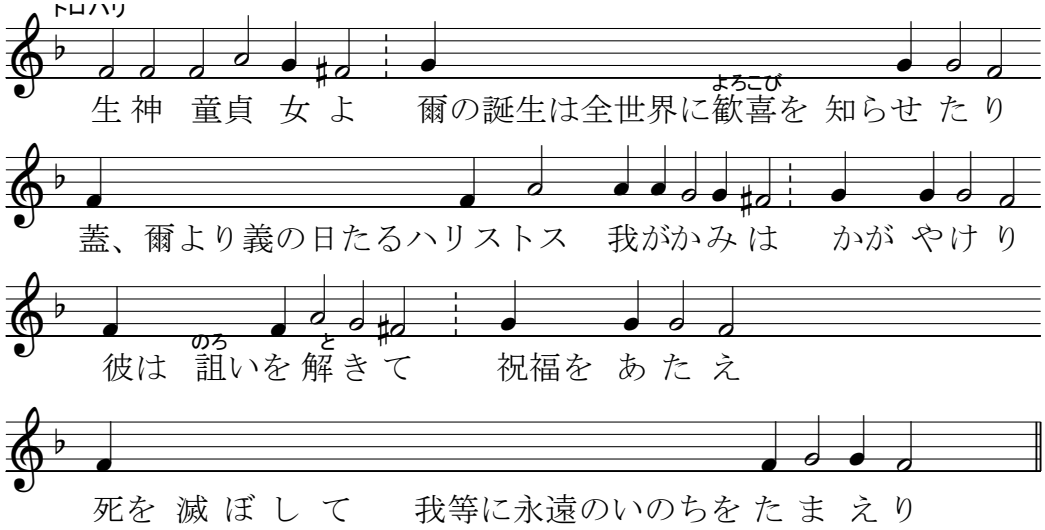
**（詠）　「アミン」**

（アミンに続いて）

## 祭-5　祭日のトロパリ　3 回

▽祭日経 P857→P851

＜第四調＞生神童貞女よ、爾の誕生は全世界に歓喜を知らせたり、蓋爾より義の日たるハリストス我が神は輝けり。彼は詛を解きて祝福を與へ、死を滅して我等に永遠の生命を賜へり。




→通常部分 P14「願わくは主の名は崇めほめられ･･･・」へ戻る。

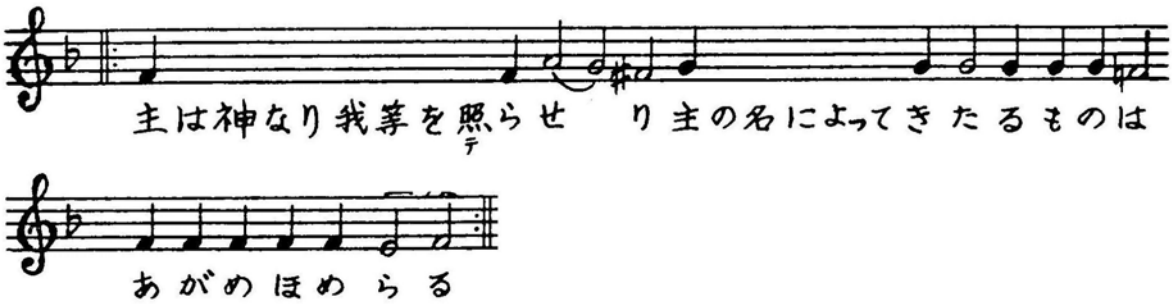
# 早課

六段の聖詠、大連祷に続いて
＜カフィズマ、セダレンは省略＞

## 祭-6　主は神なり、祭日トロパリ ▽祭日経 P857→P851

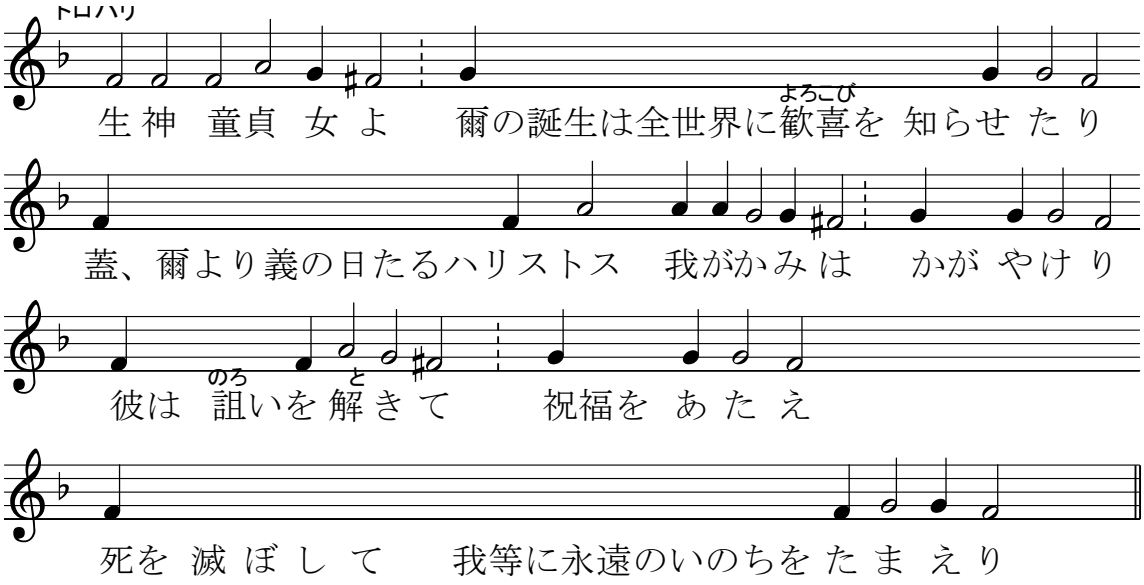
＜【主は神なり】日本では 3 回だが、本来は下記の句に続いて 4 回。第 4 句に続いてトロパリ。＞

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、
（第１句） 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、
（第２句） 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、
（第３句） 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、
（第４句） 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、




生神童貞女よ、爾の誕生は全世界に歓喜を知らせたり、蓋爾より義の日たるハリストス我が神は輝けり。彼は詛を解きて祝福を與へ、死を滅して我等に永遠の生命を賜へり。

＜カフィズマ省略＞



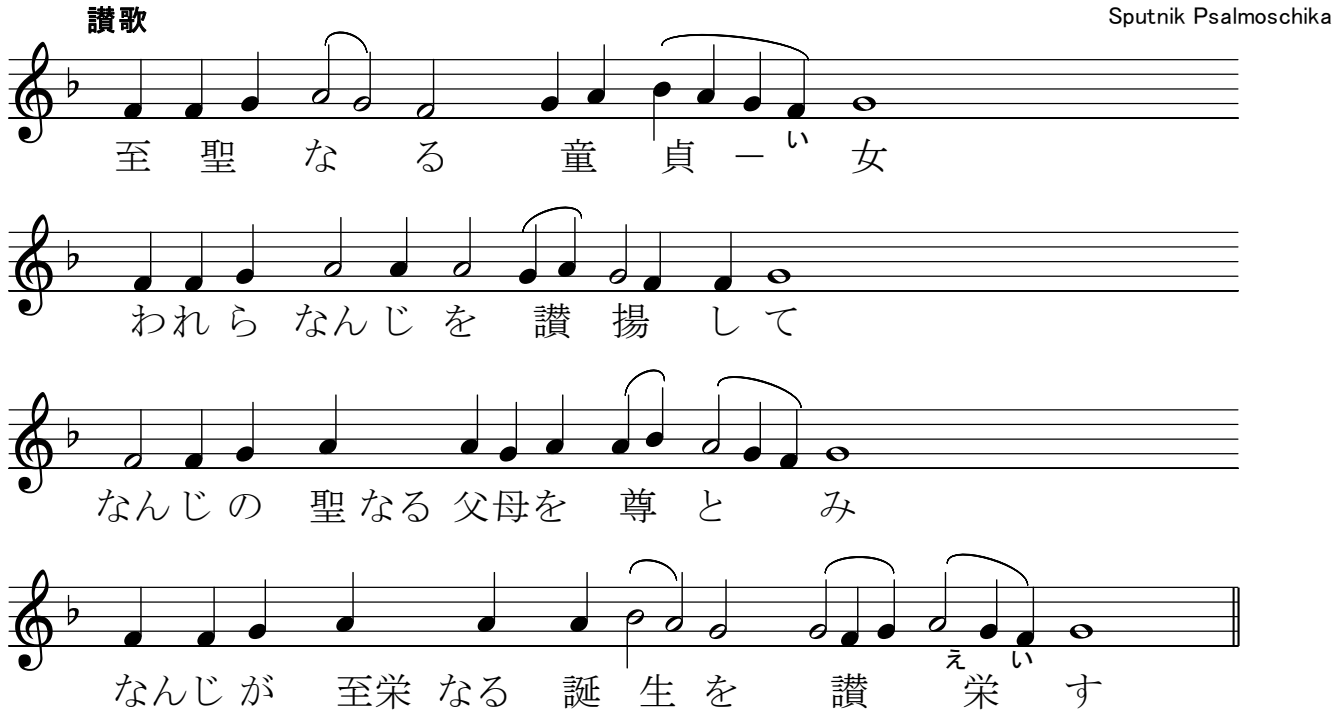

**→通常部分へ戻る　P17【ポリエレイ】へ**

＜坐誦讃詞省略＞

ポリエレイに続いて讃歌

**祭−7** 【讃歌】（讃歌はロシア系のみの伝統なので祭日経には出ていない。**▽連接歌集 P342**

（ズナメニイのメロディによる）




右、至聖なる童貞女よ、我等爾を讃揚して、爾の聖なる父母を尊み、爾の至榮なる誕生を讃榮す。

右、主よ、ダワィド及び其全き温柔を記憶せよ。

左、彼は主に誓ひ、イアコフの神に約したり。

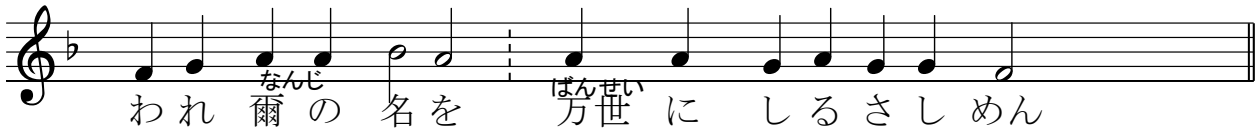
・・・・・・・・・

「アリルイヤ」、「アリルイヤ」、「アリルイヤ」。

**→通常部分 P18 へ戻る**　【小連祷】【アンティフォン】４調

# 祭−8 提綱、第四調。▽祭日経　P858

**我爾の名を萬世に誌さしめん。**句、我が心善言を涌き出せり。




**（詠）　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、**（２回半）

輔祭　（句）　神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、

**（詠）　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、**（２回半）

輔祭　凡そ呼吸ある者は

**（詠）　凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、**（２回半）

輔祭　我等に聖福音経を聴くを賜うを主・神に祷らん、

**（詠）　主憐めよ、**３次

輔祭　睿智粛みて立て、聖福音経を聴くべし、

司祭　衆人に平安、

**（詠）　爾の神にも、**

司祭　ルカ伝の聖福音経の読み、

**（詠）主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、**

福音經はルカ４端。

彼の日マリヤ起ちて、亟に山地に適き、イウダの邑に至り、40 ザハリヤの家に入りて、エリサワェタに安を問へり。41 エリサワェタ マリヤの安を問ふを聞きし時、胎兒其腹の内に躍れり。エリサワェタ聖神に滿てられ、42 大聲に呼びて曰へり、爾は女の中に祝福せられたり、爾の腹の果も祝福せられたり。43 我が主の母我に臨めり、我何より此を得たるか。44 蓋爾が安を問ふ聲の我が耳に入りし時、胎兒我が腹の内に喜び躍れり。45 信ぜし者は福なり、蓋主より彼に告げられし事は必成らん。46 マリヤ曰へり、我が靈は主を崇め、47 我が神は神我が救主を悦べり、48 蓋其婢の卑しきを顧みたり、今より後萬世我を福なりと謂はん。49 蓋權能者は我に大なる事を爲せり、其名は聖なり、

**（詠）主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、**

## (誦)50 聖詠　読む　（交替で祝福を受けに行く）

続いて

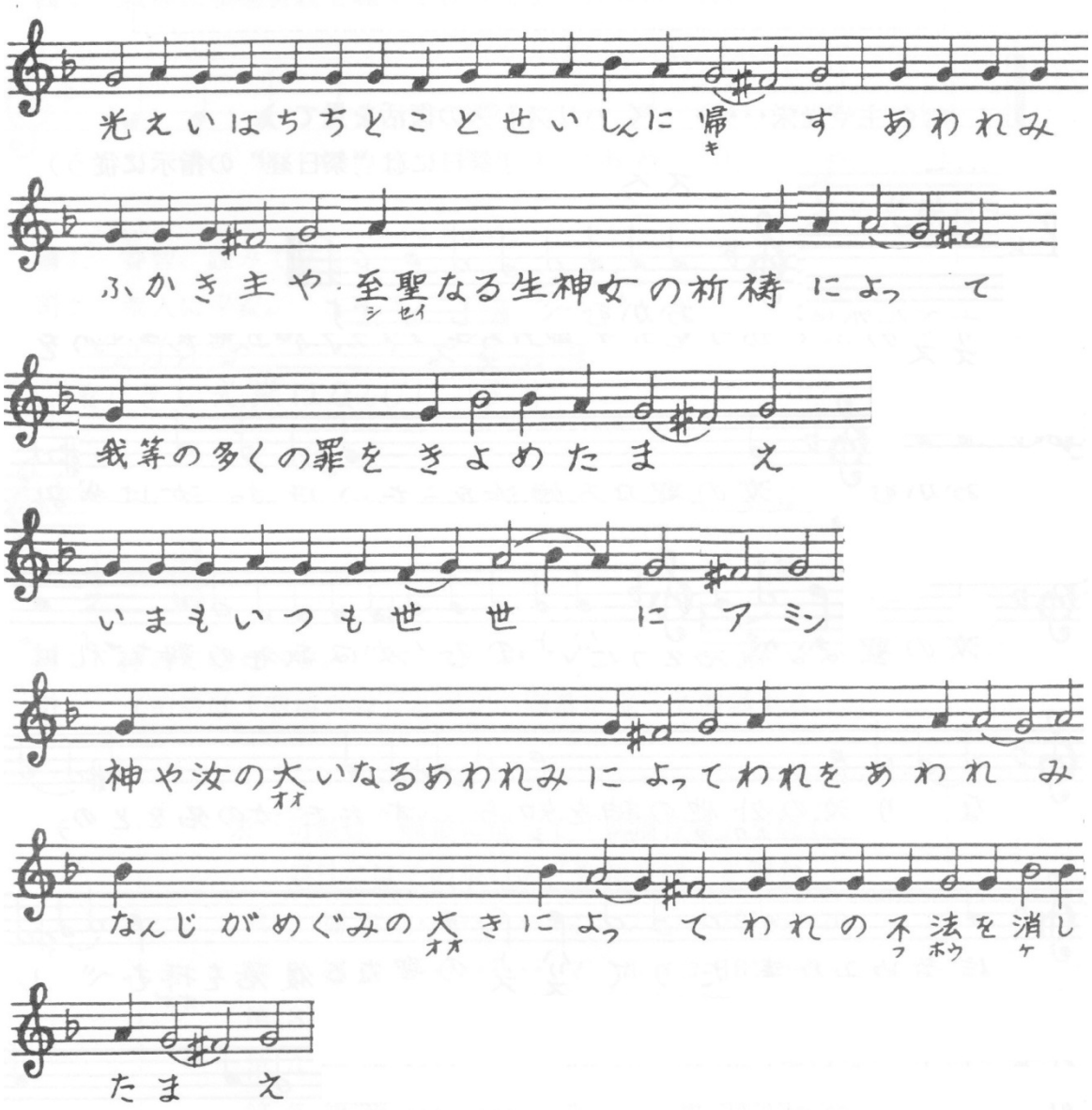
# 祭−9　福音後のスティヒラ　▽祭日経　P859

**第五十聖詠の後に、光栄**、

生神女の祈祷に依りて、憐み深き主よ、我等の多くの罪を浄め給へ。

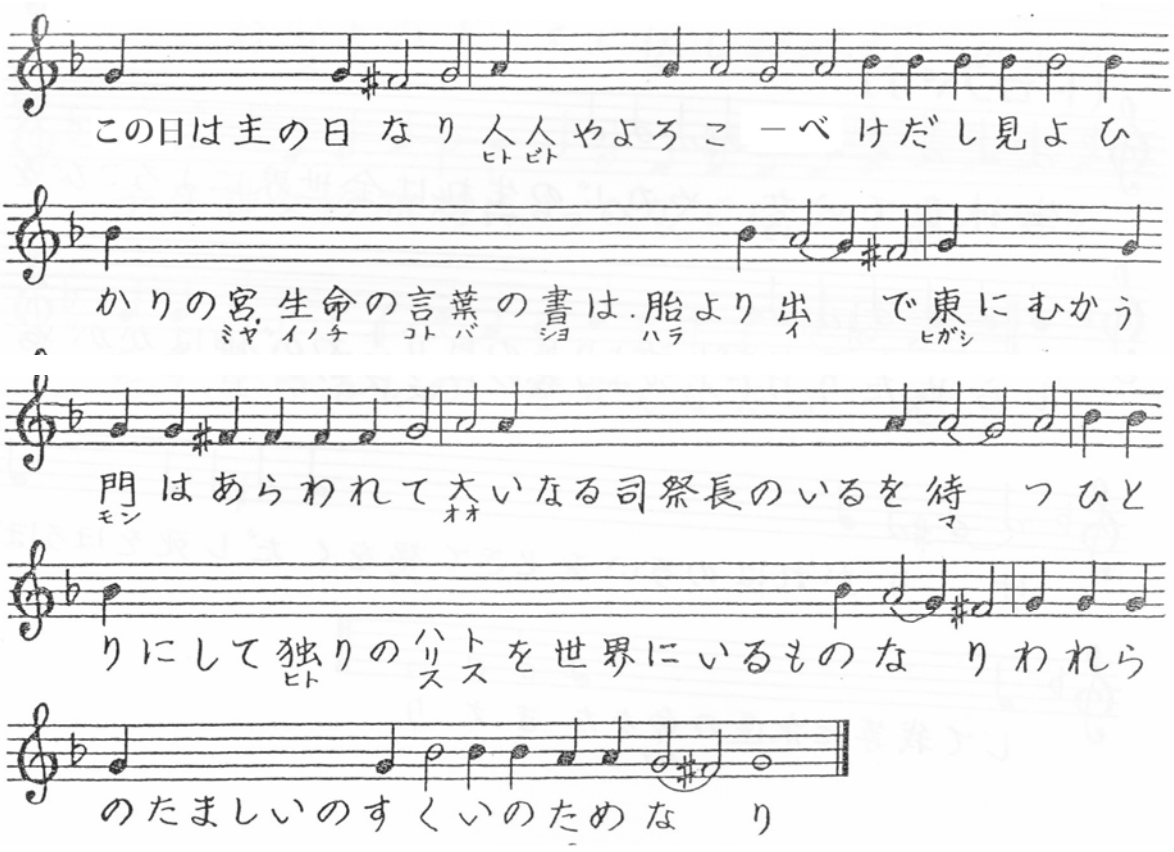
**今も、同上**。

次に**「神よ、爾の大なる憐に因りて」**。




**祭日の讃頌、第六調**。

斯の日は主の日なり、／人々よ、喜べ、／蓋視よ、／光の宮、生命の言の書は腹より出で、／東に向ふ門は現れて、／大なる司祭長の入るを候つ、／独りにして独りのハリストスを／世界に入るる者なり、／我等の霊の救の為なり。(楽譜は次ページ)




**→通常部分 P20 へ戻る**　【輔祭「神よ、爾の大いなる憐れみによって･･･」と「主憐れめよ」12 回】
（アミンに続けて）

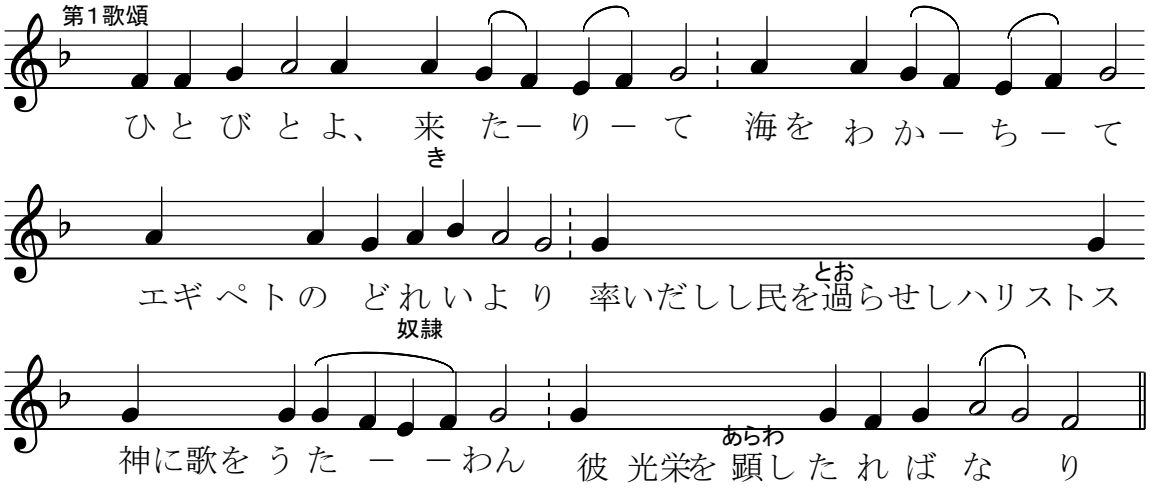
# 祭−10　カノン　▽祭日経　P859

（規程二篇。両規程の「イルモス」各二次、其讃詞共に十二句に）

**第一の規程**、ダマスクのイオアン師の作。**第二調**。

第一歌頌

イルモス、人々よ、来りて、海を分ちて、エギペトの奴隷より引き出しし民を過らせしハリストス神に歌を歌はん、彼光栄を顕したればなり。（楽譜は次ページ）




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

信者よ、來りて、聖神に依りて喜びて、今日胎の荒れたる者より人人の救の爲に生れ給ひし永久童貞の少女を歌を以て讃美せん。

**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

慶べよ、ハリストス神の最尊き母及び婢、人類の爲に轉達して原始の福樂を獲しめし者よ、我等皆宜しきに合ひて歌を以て爾を讃榮す。

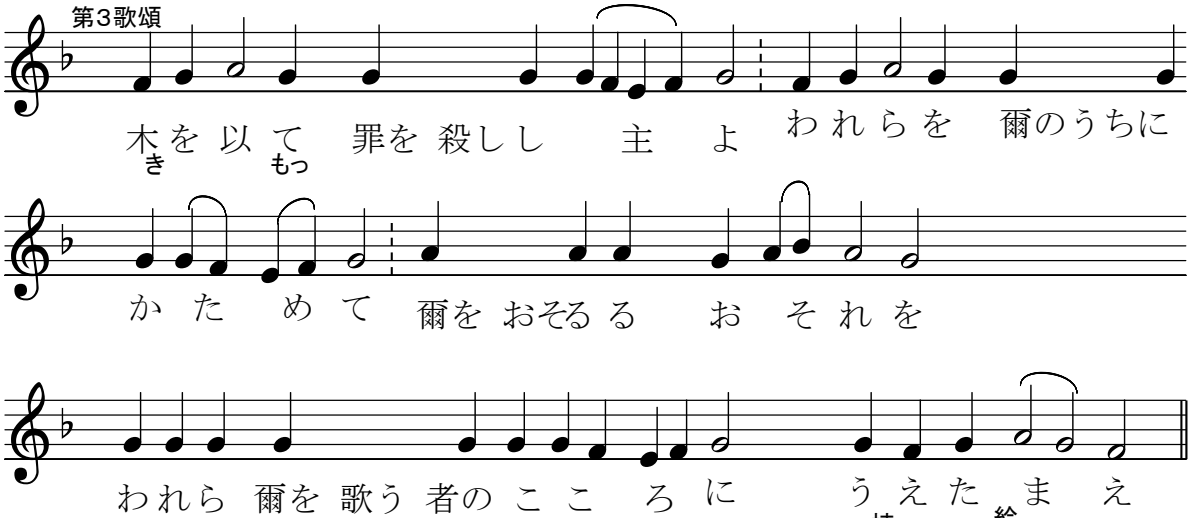
**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

今日生命の橋は生る、死すべき者は是に依りて地獄の深處より上るを得て、歌を以てハリストス、生命を施す主を讃榮す。

第二の規程、クリトのアンドレイ師の作。第八調。＜省略＞

第三歌頌

イルモス、**木を以て罪を殺しし主よ、我等を爾の中に堅めて、爾を畏るる畏を我等、爾を歌ふ者の心に植え給へ。**




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

無玷に神の爲に日を送りし者、我等の造成主及び神を生みし童貞女の神智なる父母は衆人

の爲に救を生めり。

**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

萬衆に生命を流す主は胎の荒れたる者より童貞女を生ぜしめたり其内に甘じて入りて、生るる後にも之を損はるるなく護り給へり。

**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

我等今日アンナの果たるマリヤ、生命を施す葡萄を生みし者を、生神女及び衆人の轉達者并に扶助者として讃め歌はん。

第二のカノン＜省略＞　　坐誦讃詞、第四調。＜省略＞

**【小連祷】**

輔祭　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

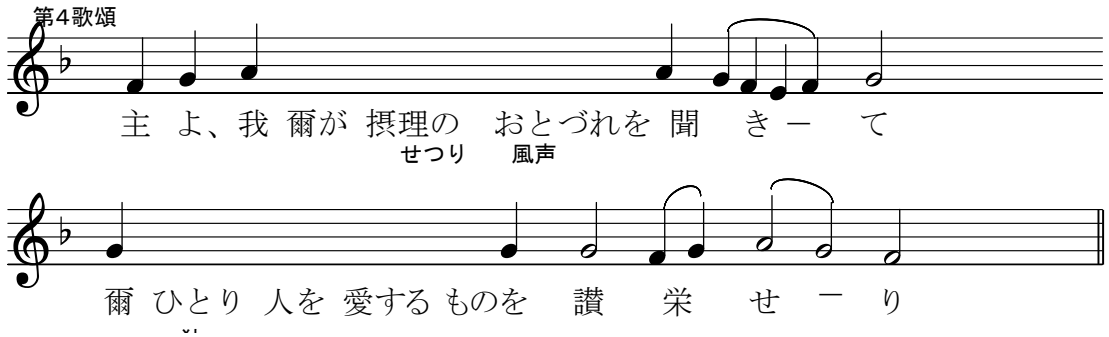
輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

**（詠）主 爾に**

司祭　（高声）蓋爾は我等の神なり、我等光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**（詠）「アミン」**

第四歌頌

イルモス、**主よ、我爾が摂理の風声を聞きて、爾の独人を愛する者を讃栄せり。**




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

主宰よ、我等爾、衆信者に救を得しむる避所として爾を生みし者を賜ひし主を讃め歌ふ。

**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

神の聘女よ、ハリストスは、信を以て爾の祕密を讃め歌ふ衆人の爲に光榮及び權力と

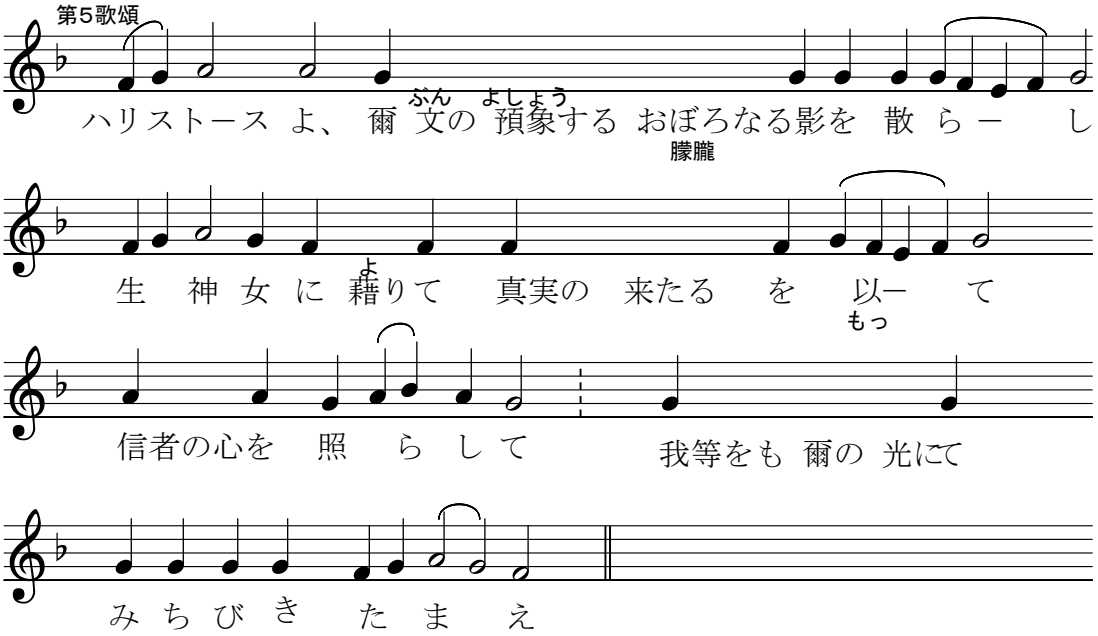
**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

婚姻を識らざる女宰よ、我等爾の祈祷を以て諸罪より援けらるる者は、皆感謝の心を抱きて、爾を崇め讃む。

第二のカノン＜省略＞

第五歌頌

**イルモス、ハリストスよ、爾文の預象の朦朧なる影を散し、神女に藉りて真実の来るを以て信者の心を照して、我等をも爾の光にて導き給へ。**




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

人人よ、萬有の起原者が我等に現れし所以の起原女を讃め歌はん。嘗て諸預言者は其預象を見て欣べり、其結びたる果として眞の救を獲たればなり。

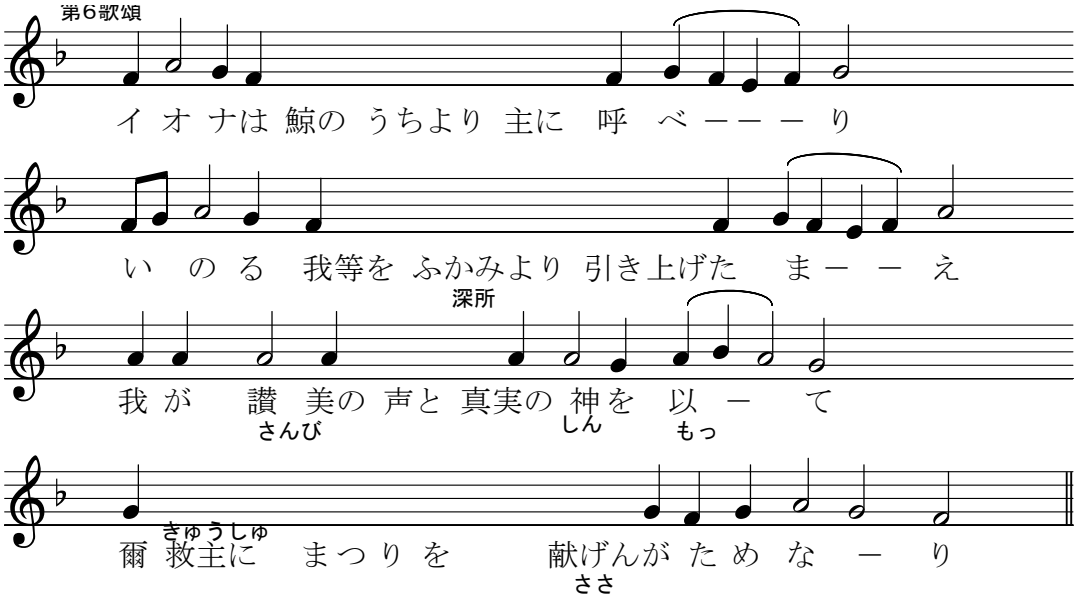
**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

枯れたる杖が華を發きしはイズライリに司祭の預選を示せり。今も胎の荒れたる者の至りて光榮なる産は生みし者の光れる徳を奇妙に顯す。

第二のカノン＜省略＞

第六歌頌

**イルモス、イオナは鯨の中より主によべり、祈る、我を地獄の深處より引き上げ給へ、我が讃美の声と真実の神。とを以て爾救主に祭を献げん為なり。**



**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

神の母の神智なる父母は生まざる悲に於て主に籲びしに、代代の爲に一般の救及び光榮として之を生めり。

**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

神の母の神智なる父母は神に適ふ天の賜を受けたり、是れヘルワィムよりも最高き寶座、言及び造物主を生みし者なり。

第二のカノン＜省略＞

**【小連祷】**

輔祭　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、　**（詠）主 爾に**

司祭　（高声）蓋爾は平安の王及び我が霊の救主なり、我等光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、　**（詠）「アミン」**

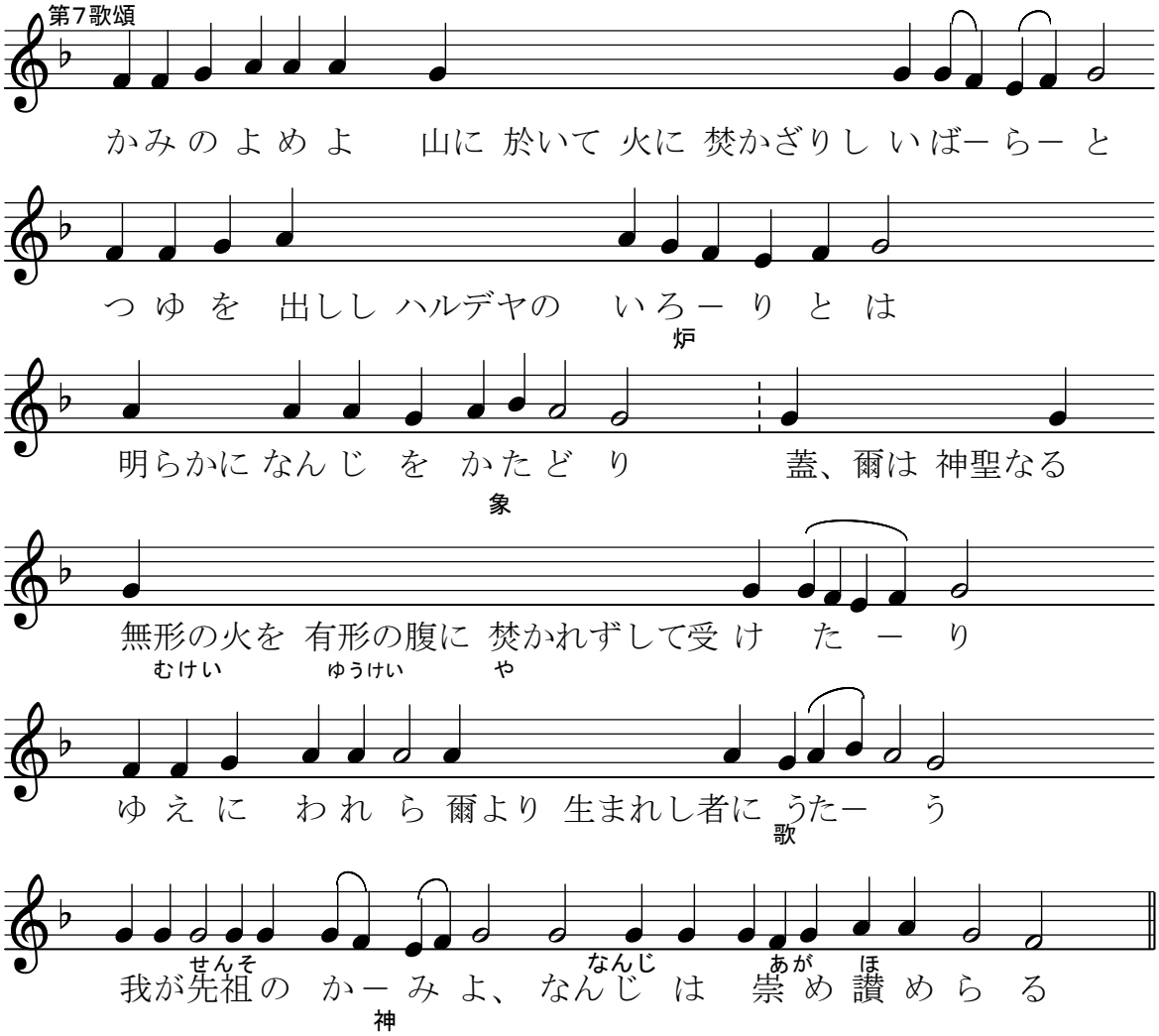
小讃詞、第四調。

至淨なる者よ、爾の聖なる誕生に由りてイオアキム及びアンナは子なき辱、アダム及びエワは死の朽壊を免れたり。定罪より釋かれし爾の民も之を祭りて、爾に籲ぶ、胎の荒れたる者は生神女、我等の生命の養育者を生む。

＜同讃詞　省略＞

第七歌頌

**イルモス、神の聘女よ、山に於て火に焚かれざりし棘と、露を出ししハルデヤの爐とは、明に爾を像れり、蓋爾は神聖なる無形の火を有形の腹に焚かれずして受けたり、故に我等爾より生れし者に歌ふ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。**




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

至尊なる者よ、昔律法者は形ある顯現に因りて爾の大なる祕密を悟ることを許されざりき、唯徵を以て世の情に循ひて爾の事を測るべからざるを教へられたり。故に奇蹟に驚きて籲べり、我が先祖の神は崇め讃めらる。

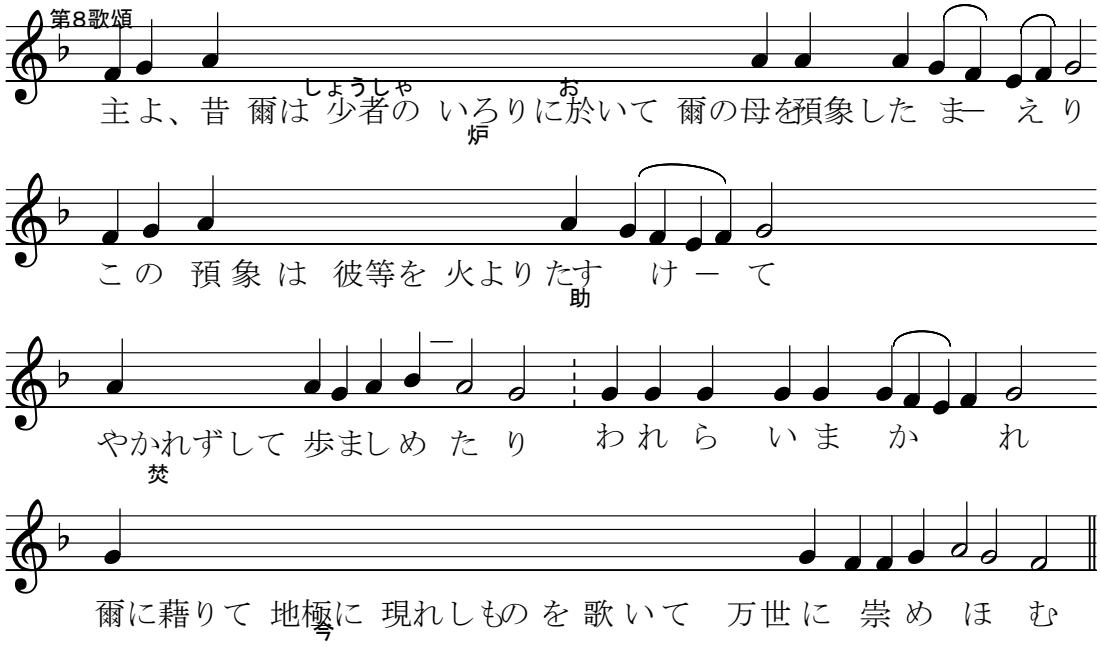
**光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン**

神聖なる會は山と、天の門と、神靈の梯とを以て宜しきに合ひて爾を預象せり、蓋爾より人の手に藉らずして石は截り分けられたり、爾は主、奇蹟を行ふ我が先祖の神の過り給ひし門なり。

第二のカノン＜省略＞

第八歌頌

**イルモス、主よ、昔爾は少者の爐に於て爾の母を預象し給へり、此の預象は彼等を火より援けて、燬かれずして歩ましめたり、我等今彼、爾に藉りて地極に現れし者を歌ひて、萬世に崇め讃む。**




**（附唱）至聖なる生神女よ、我等を救い給え**

我等を神と和睦せしむる預定の幕は今生存を創む、我等の爲に物質の體に現れし言を生まん爲なり。我等言に藉りて無より生存を受けし者は彼を歌ひて、萬世に崇め讃む。

**父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世々にアミン**

父母の産まざるを啓きし者は世界が善を産まざるを啓きて、明に奇跡たるハリストスが死すべき者に臨み給ひしを顯せり。我等ハリストスに藉りて無より生存を受けし者は彼を歌ひて、萬世に崇め讃む。

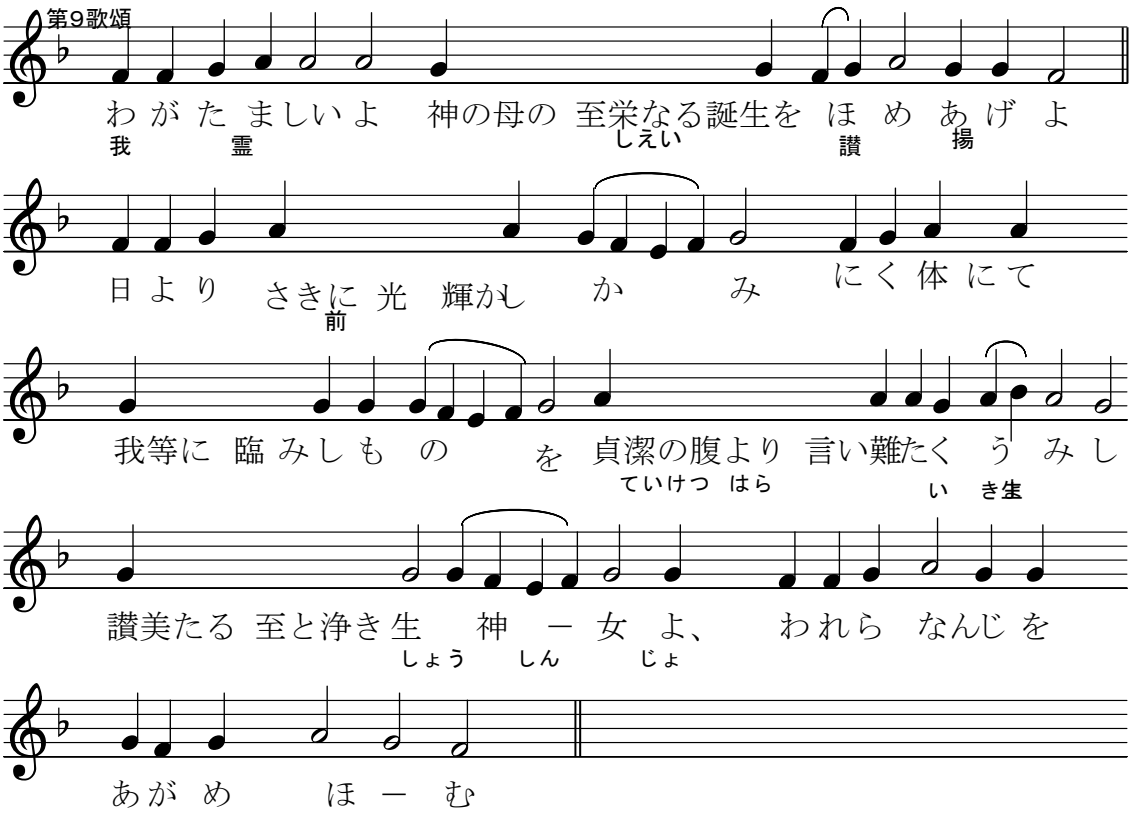
第二のカノン＜省略＞

第九歌頃には「ヘルワィムより尊く」を歌はずして、「イルモス」及び諸讃詞の前に左の附唱を歌ふ。
我が霊よ、神の母の至栄なる誕生を讃め揚げよ。

第九歌頃

**（附唱）我が霊よ、神の母の至栄なる誕生を讃め揚げよ。**

**イルモス、日より前に光り輝きし神、肉体にて我等に臨みし者を、貞潔の腹より言ひ難く生みし讃美たる至浄き生神女よ、我等爾を崇め讃む。**




（附唱）我が霊よ、神の母の至栄なる誕生を讃め揚げよ。

順はざる人人の爲に石より水を出しし者は、順ふ諸民の爲に荒れたる胎より我等の喜として爾至淨なる神の母を賜ふ。我等宜しきに合ひて爾を崇め讃む。

（附唱）我が霊よ、神の母の至栄なる誕生を讃め揚げよ。

生神女よ、我等爾古の嚴しき定罪より救ひし者、原母を起しし者、人類と神との和睦の縁由の者、造物主に渡す橋なる者を崇め讃む。

第二のカノン＜省略＞

**【小連祷】**

輔祭　我等安和にして主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、　**（詠）主 憐れめよ**

輔祭　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、　**（詠）主 爾に**

司祭　（高声）蓋天の衆軍爾を讃揚す、我等も光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

**（詠）「アミン」**

※日曜日の場合には「主は神なり」を歌う。

**光耀歌**

~~今日果を結ばざるアンナより華たる生神女、地の四極に神聖なる馨香を充て、一切の造物に歓喜を満つる者は生じたり。我等彼を歌ひて、地に生るる者より至りて秀でたる者として宜しきに合ひて讃め揚ぐ。~~

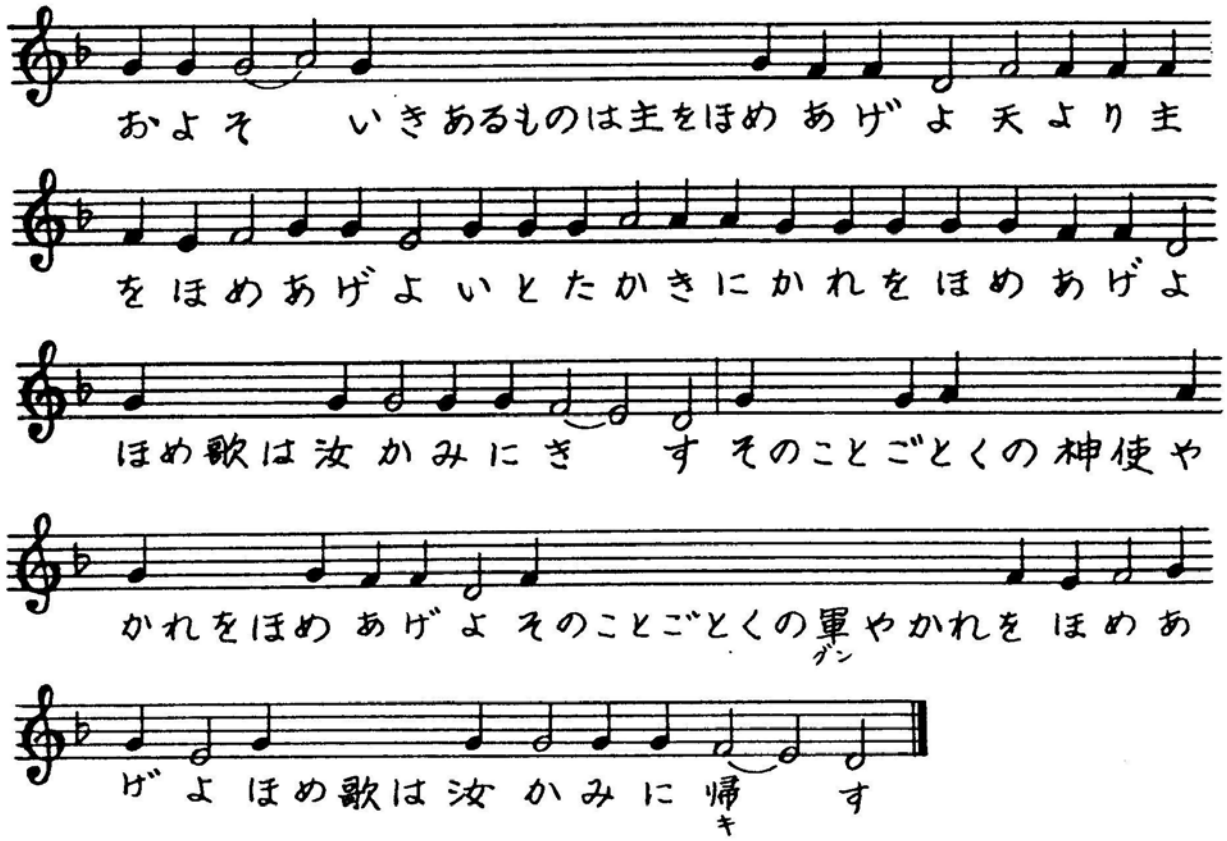
~~（二次）~~

~~光栄、今も、~~

~~アダムよ、新になれ、エワよ、振ひ興れ、諸預言者よ、使徒及び義人等と偕に宿へ、蓋今日義なるイオアキムとアンナより諸天使及び人々の一般の歓喜たる生神女マリヤは輝き出でたり。~~

## 祭 11 【讃揚歌とスティヒラ】▽祭日経　P876

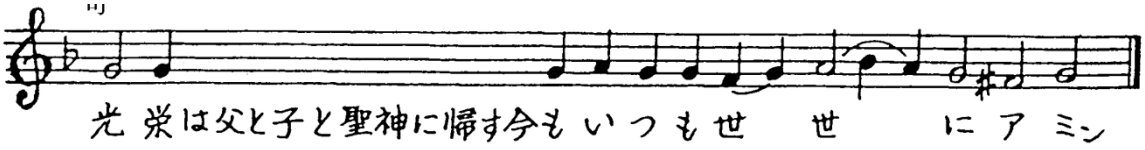
「凡そ呼吸ある者」に四句を立てて讃頌を歌ふ。第一調。

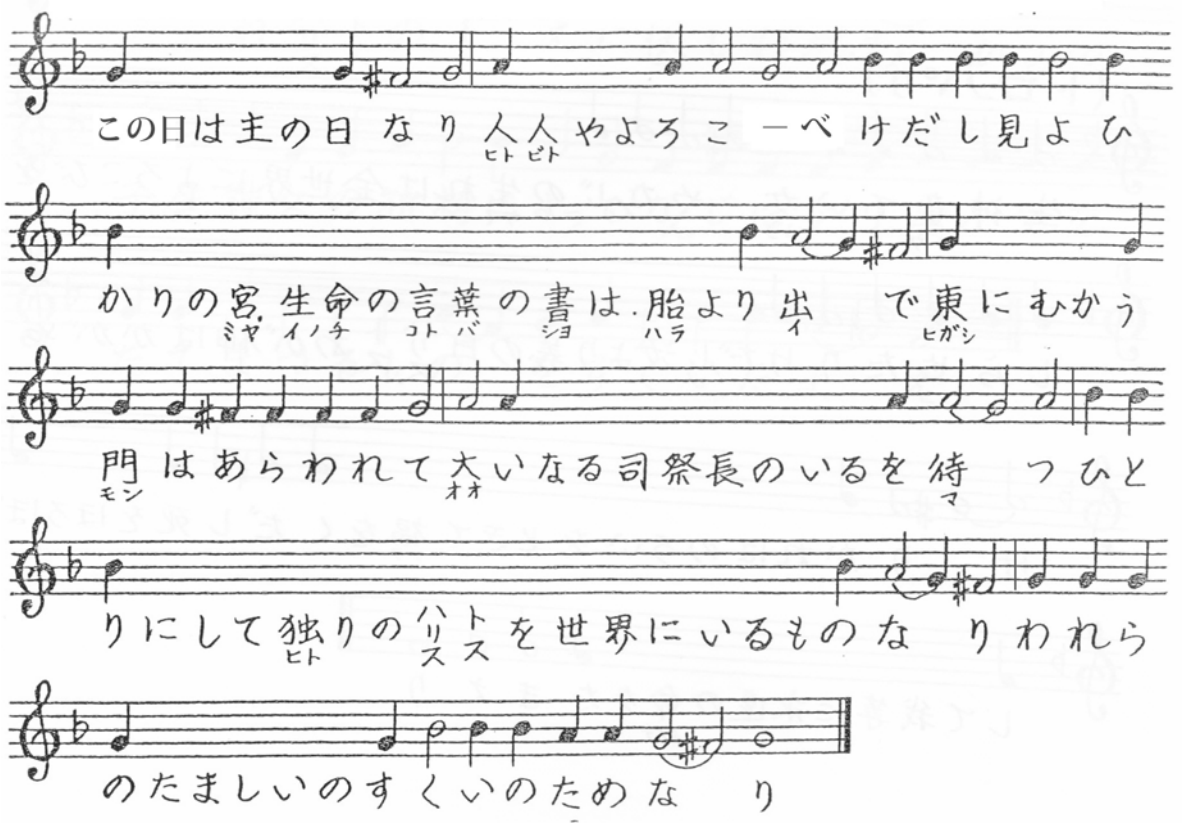



<以下スティヒラ省略>

光栄、今も、第六調。

斯の日は主の日なり、／人々よ、喜べ、／蓋視よ、／光の宮、生命の言の書は腹より出で、／東に向ふ門は現れて、／大なる司祭長の入るを候つ、／独りにして独りのハリストスを／世界に入るる者なり、／我等の霊の救の為なり。

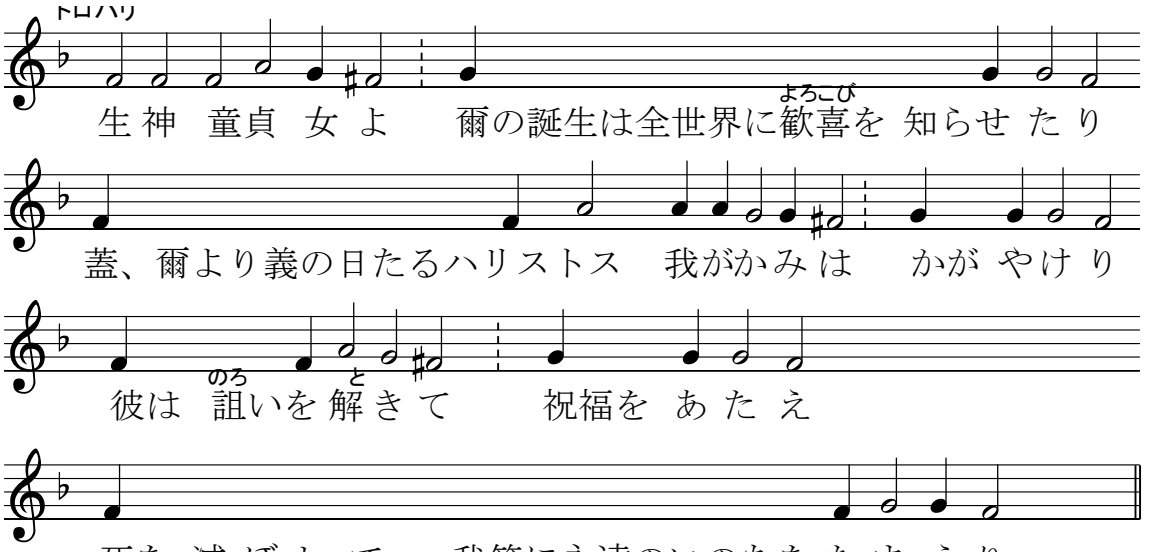





→通常部分 P22 に戻る　【大詠頌】を歌う

大頌栄、「聖なる神」を歌った後

## 祭 12 【祭日トロパリ】第 4 調　P857→P851



→通常部分 P27 に戻る

【重連祷、増連祷】　早課の終わり。発放詞。

# 時課

＜時課の変更箇所は、トロパリコンダクのみ＞

**讃詞、第四調**。

生神童貞女よ、爾の誕生は全世界に歡喜を知らせたり、蓋爾より義の日たるハリストス我が神は輝けり。彼は詛を解きて祝福を與へ、死を滅して我等に永遠の生命を賜へり。

**小讃詞、第四調**。

至淨なる者よ、爾の聖なる誕生に由りてイオアキム及びアンナは子なき辱、アダム及びエワは死の朽壞を免れたり。定罪より釋かれし爾の民も之を祭りて、爾に籲ぶ、胎の荒れたる者は生神女、我等の生命の養育者を生む。